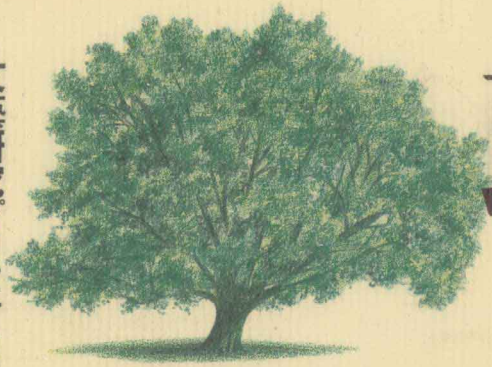
よくわかる大江健三郎



文藝研究プロジェ 編著

JapanMix

著者紹介/文藝研究プロジェ

早稲田、慶応、学習院を中心に幅広く現代文学の研究をすすめている大学院の気鋭のメンバーの集まり。メンバー一同、村上春樹の本当の復活を期待し、高橋源一郎のあまりにも長い冬眠からの目覚めを祈願し、大江健三郎の今後の新たな出発を願っている。

執筆協力
武田幸一/中里千春/松沢義憲/大嶋未愛/島田佳代子

編集協力
佐藤睦子

本文イラスト
さげはし　かよこ

版下出力
株式会社企画室ゆう

弊社では愛読者クラブの会員（会費無料）を募集しています。
詳しくは愛読者ハガキをご参照ください。

よくわかる大江健三郎

編　著／文藝研究プロジェ
編集人／長橋俊恵
発行人／須田　早
発行所／ジャパン・ミックス株式会社
〒107　東京都港区赤坂7−10−6
ストークビル赤坂201
営業部　03-5570-6211
Fax　03-5570-6212
編集部　03-5570-5811
英語対応　03-5570-5813

ISBN4-88321-162-2　③④ P=SHE, B=BKS
©1994 Bungei Kenkyū Projet

レイアウト／大澤和歌子（デザイン・ミックス）、三雲理恵子
営業／斉藤英彦、星野康広、八木栄至、橋口千枝

よくわかる大江健三郎

文藝研究プロジェ 編著

はじめに

大江健三郎がノーベル文学賞を受賞した。それは同じ時代を生きている日本人にとって大きな喜びであると同時に、意外な驚きでもあった。日本人のだれもが、同じような大きな驚きと喜びを同時に味わったのではないだろうか？

その理由は明確である。ノーベル賞作家・大江健三郎をわれわれ日本人はこれまであまり読んでこなかった。高名な作家であることは、だれもがどこかで聞いて知ってはいたものの、大江健三郎という作家がこれまでどのような作品を書いてきたのかを自信をもって答えられる人は、それほど多くはなかったのではなかろうか？

「ノーベル賞作家・大江健三郎」が誕生した翌日から、書店では多くの関連書物が店頭に並べられ、新聞、雑誌では特集が組まれ、多くの分野の人たちが大江について語った。

だれもが祝福を送り、賞賛し、現代の日本文学が世界の水準にひけを取らないものであるどころか、誇りうるものであることを知り、心から喜んだ。しかし、多くの作家や批評家が賛辞を送り、にわかにひらかれた座談会のコメントを読めば読むほど、大江健三郎という作家がど

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

のような作家であるかは賛辞の渦に隠れ、はっきりと浮かびあがってはこなかった。

「世界の大江」について論じられたものを読む前に、大江の作品そのものを、まず自分たちで読むべきではないかと痛切に感じた。

かれが学生時代に書いた伝説的な小説『死者の奢り』から、大江の最後の小説であるという『燃えあがる緑の木』三部作まで、ぜひ、全部を読んでみよう。今からでも遅くないのだ！そう決意をしたのである。

とはいうものの、だれが決めたのかはわからないが「大江文学は難解である」ことが通説になっている。苦難が予想された。しかし、世界で読まれている大江の作品を、日本人であるわれわれが「原語」で読めなくてどうするのか！

全作品はもちろん読めない。とりあえず、重要な二十冊の書物を選択し、読むことに決めた。そこで現代文学および現代思想にかかわりを持つ「文藝研究プロジェ」のメンバーの中から「大江健三郎を読むチーム」なる奇妙な会をにわかに結成し、大胆な挑戦を開始したのである。

選んだ二十冊の書物を、一冊につき最低三人のメンバーが読むことを原則にして、一カ月間、時間の許す限り大江の作品を読みぬいた。

ノーベル文学賞受賞の直接の対象となった『万延元年のフットボール』、および難解で有名

な『同時代ゲーム』は全員で読むことに決定した。

こうして、二十冊すべてを読み終えた軌跡が本書のすべてである。本書は大江健三郎を読むことによって書かれた、読むための本である。決して大江文学研究の本ではないことをお断りしておく。

わが「文藝研究プロジェ」のこうした大胆な挑戦を知り、そのなまなましい記録を、これまでにない、まったく新しい文芸書のスタイルとして世に送りだしてくださったジャパン・ミックスの社長・須田早氏に深く感謝します。ならびに、短時間ですばらしい本に編集してくださった佐藤・長橋両女史に深く感謝！

「文藝研究プロジェ」を代表して

佐藤　祐輔

目次

第一章　大江健三郎入門―人と作品―……11

第二章　（作品から見る）大江健三郎に関する十の質問……25

質問1　大江の小説に、ユニークな名前の登場人物が多く出てくるのはなぜだろう？……26

質問2　大江文学がとかく難解といわれるのはなぜだろう？……28

質問3　大江が作家になるにあたって、若い頃は
どんな作家の影響を受けたのだろう？　浪人時代には、
ドストエフスキーを朝から晩まで読んでいたのでは？……30
質問4　大江はサルトルの影響で小説を書き始めたのでは？……32
質問5　大江の作品には樹木の比喩がよく使われるが、
大江の最後の集大成といわれる小説のタイトル
『燃えあがる緑の木』は、どのような意味で用いられているのだろうか？……34
質問6　大江文学の舞台となる「谷間の村」は実際に存在するのだろうか？……36
質問7　大江の小説では、どんな外国詩人や作家が引用されているのだろう？……38
質問8　大江の作品のタイトルに出てくる「森のフシギ」とはなんだろう？……41
質問9　大江の作品のタイトルに出てくる「M／T」とはなんだろう？……42
質問10　大江光の音楽は、大江文学を理解する上で
どのような働きをしているのだろう？……44

第三章　主要作品解説……47

『死者の奢り』……48
『芽むしり　仔撃ち』……62
『われらの時代』……70
『性的人間』……79
『個人的な体験』……84
『ヒロシマ・ノート』……98
『万延元年のフットボール』……103
『洪水はわが魂に及び』……117
『ピンチランナー調書』……125
『同時代ゲーム』……133
『「雨の木（レイン・ツリー）」を聴く女たち』……144

『新しい人よ眼ざめよ』……150
『M／Tと森のフシギの物語』……167
『懐かしい年への手紙』……179
『人生の親戚』……194
『静かな生活』……199
『治療塔』……214
『治療塔惑星』……222
『「救い主」が殴られるまで　燃えあがる緑の木　第一部』……231
『揺れ動く（ヴァシレーション）　燃えあがる緑の木　第二部』……250

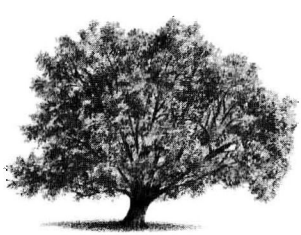
年譜……257
参考資料（大江健三郎　海外翻訳本紹介）……271

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

第一章

大江健三郎入門

人と作品



大江健三郎　創作活動の軌跡

●は共通の神話的物語
◎は長編問題作

主要な作品

※『主要な作品』はすべて本書第三章で解説されています（『燃えあがる緑の木』第三部は除く）

第一期　初期

『死者の奢り』　（一九五八）
『芽むしり　仔撃ち』　（一九五八）

第二期　過渡期

『われらの時代』　（一九五九）
『性的人間』　（一九六三）

第三期　転換期

◎『個人的な体験』　（一九六四）
（『ヒロシマ・ノート』）　（一九六五）

第四期　展開期〈長編小説の問題作を発表した時期〉

●『万延元年のフットボール』　（一九六七）
（ノーベル賞対象）

◎『洪水はわが魂に及び』　（一九七三）
◎『ピンチランナー調書』　（一九七六）
●『同時代ゲーム』　（一九七九）

出来事

一九六〇　安保闘争
社会党浅沼委員長が右翼の少年に刺殺される
一九六二　キューバ危機
安部公房『砂の女』
一九六三　ケネディ大統領暗殺
長男　光誕生
一九六五　ベトナム戦争激化
一九六八　吉本隆明、『共同幻想論』が現代文学に衝撃を与える。
パリの学生闘争激化
川端康成、ノーベル文学賞受賞決定
一九六九　大学紛争
一九七〇　十一月二十五日、三島由紀夫割腹自殺
連合赤軍の浅間山荘事件
一九七二　ノーベル文学賞受賞者、川端康成自殺（七十二歳）
一九七三　金大中事件・第一次石油危機
一九七五　埴谷雄高、伝説の問題作『死霊』第五章「夢魔の世界」発表。（＊現在第八章まで発表）

第五期　大きな変化の時期・人生の危機（ブレイクとの対話）

『「雨の木（レイン・ツリー）」を聴く女たち』　（一九八二）
『新しい人よ眼ざめよ』　（一九八三）
●『M／Tと森のフシギ』　（一九八六）

第六期　人生の折り返しの時期（ダンテ、イェーツとの対話）

●『懐かしい年への手紙』　（一九八七）
『人生の親戚』　（一九八九）
『静かな生活』　（一九九〇）

SF小説に挑戦

『治療塔』　（一九九〇）
『治療塔惑星』　（一九九一）

第七期　小説の締めくくりの時期（イェーツとの対話）

●『「救い主」が殴られるまで』　（一九九三）
《『燃えあがる緑の木』第一部》
●『揺れ動く（ヴァシレーション）』　（一九九四）
《『燃えあがる緑の木』第二部》
●『大いなる日に』　（一九九五）
《『燃えあがる緑の木』第三部》

第八期　小説を超える新たな試みの時期（スピノザとの対話）

スピノザが中心のテーマ

一九七七　日本赤軍、日航機ハイジャック
中上健次、問題作『枯木灘』発表。同時代作家に重要な影響。
一九七八　日中平和友好条約に調印
一九八一　ポーランド政府、「連帯」を弾圧
一九八二　ソ連共産党書記長ブレジネフ死亡
村上春樹『羊をめぐる冒険』
高橋源一郎『さようなら、ギャングたち』
一九八六　ゴルバチョフによる「ペレストロイカ」始まる
チェルノブイリ原発事故
一九八九　天安門事件
東西冷戦終結
東欧で大改革
一九九〇　東西ドイツの統一
一九九一　湾岸戦争
ソ連解体
一九九三　五五年以来の自民党一党支配の崩壊。
以後波乱含みの多党派連立内閣の時代に入る。
一九九四　大江健三郎、ノーベル文学賞受賞

ノーベル賞作家・大江健三郎の誕生

王立アカデミー発表の受賞理由

「大江氏は自分は日本の読者のために書いたと、強調しているが、西洋文化の強い影響を受けている。一九四五年、原爆投下後の日本の降伏で、天皇が人間の声で話したことは、若い大江氏に衝撃的であり、この思いが多くの作品に投影されている。大江氏は詩的想像力により、現実と神話が密接に凝縮された想像の世界をつくりだし、現代における人間の様相を衝撃的に描いた」

「彼自身、『ものを書くことは悪魔を追い払うこと』と表現している。自分の作り出した想像の世界の中で個人的なものを掘り下げる事で人間に共通するものを描き出すことに成功した。これは脳に障害のある子の父となってからの作品にとくに言える。同氏の『万延元年のフットボール』（英訳は『沈黙の叫び』）は代表的作品で、知識、熱情、夢、野心、さまざまな人の態度などが互いに融合する混乱した世界での人間関係を描いた」

（平成六年十月十四日付朝日新聞・毎日新聞より）

ノーベル文学賞受賞の対象になった作品『万延元年のフットボール』は、一九六七年に発表された。これは大江が三十二歳の時の作品である。脳に異常をもって生まれた子どもをめぐって書かれた衝撃的な問題作『個人的な体験』を書いてから四年後、「個人的なものを掘り下げる」ことによって、大江は世界文学の最高峰に達する小説に行き着いたのだ。

大江健三郎は常に成長する作家であった。

ある時期は牧歌的な少年の世界を謳歌する作品を書き、芥川賞を受賞した。その一年後には、突然、性的イメージの氾濫する暴力的なエネルギーを内閉した作品を書いた。大江は、初期の段階から、常に成長と、脱皮と、飛躍を繰り返し続けてきた。現在では小説という文学形式を超えて、新しい表現の形式を模索している。

そのような大江健三郎とは、いったいどのような作家であるのか？　それを知る最良の方法は、やはり大江の作品をまず読んでみることである。

大江文学を初めて読む人、以前読んで今は遠ざかっている人、またとにかく早く大江健三郎という作家がどのような作家であるのかを知りたいと思っている人のために、初期の作品から最新の作品に至るまで、大江がこれまでたどってきた軌跡に沿って、大江文学の大きな流れを素描してみよう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.